

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年9月24日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870800257		
法人名	株式会社 和香紗		
事業所名	グループホーム 美里	ユニット名	1階
所在地	〒301-0000 茨城県龍ヶ崎市4353-1		
自己評価作成日	平成24年2月26日	評価結果 市町村受理日	平成24年9月21日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870800257&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0870800257&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年4月17日	評価確定日	平成24年8月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・私たちは家庭的で、安心した暮らしを大切にいたします</li><li>・私たちは安全で、健康的な生活を大切にいたします</li><li>・私たちは人間性を尊重し、その人らしい生活を大切にいたします</li><li>・私たちは地域との交流を大切にいたします</li><li>・私たちは利用者、ご家族の思いを尊重し、相談支援してまいります</li></ul>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は住宅地の一角にあり、事業所自体が町内会の一員として地域の清掃活動や祭りなどの行事に積極的に参加し、地域との交流を大切にしている。</p> <p>職員は利用者がおむつ使用からリハビリパンツ使用に改善できるよう取り組むとともに、トイレで排泄ができるよう支援をしており、利用者の家庭復帰も念頭に置き、排泄の自立に向けて取り組んでいる。</p>
---

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時に、代表と、スタッフが共同で、事業所理念を作り、現在に至っている。入職の際には、代表が新人研修にて事業所理念についての指導を行っている	管理者と職員は毎朝のミーティング時に地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を唱和し、共有するとともに日々の実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のゴミ拾いや、お祭りの準備等に積極的に参加し、地域の方々にホームの存在を認識していただけるよう、又、利用者もホームに入所していても、地域住民の一人であることを忘れないでいていただけるように取り組みを続けている	町内会に加入し地域の清掃活動や祭りは元より、祭りの準備などにも積極的に参加している。 地域のボランティアを受け入れたり、職員は利用者と一緒に近隣の八百屋や商店に買い物に行くなど、日常的に地域住民と交流ができるように支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内の行事には、地域の方々にも参加を呼びかけたり、地域のイベントに参加して交流の場を図る努力をしている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の実施に至らなかったが、開催に関して、家族の意向等を取り入れ、ホーム内でのイベントの日に時間を作り、会議を実施した。家族からは好評であった	運営推進会議は利用者や家族等、職員で開催しているが、市職員や地域住民の参加を得たり、2ヶ月に1回開催するまでには至っていない。 会議では事業所から活動状況を報告しているほか、家族等と情報交換を行い、出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	運営推進会議は市職員や地域住民の参加を得て2ヶ月に1回開催できるよう取り組むことを期待する。 市職員においては、福祉サービス向上のため全ての運営推進会議に参加することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、連絡を密に行い、事業所の実情に関しては理解を得ている。又、運営上の疑問に感じた点に関しては、相談を行っている。	管理者は月1回市役所を訪れ、市担当者に事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えたり、運営上の疑問点を相談し、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんなに認知症による行動障害がある利用者に対してでも、身体拘束は原則として行わず、たとえ、対応が困難に思える利用者に対しても、どのようにその人らしい生活をしていただけるかをカンファレンスで検討している。	管理者と全職員が身体拘束の内容とその弊害について正しく理解するために、事業所独自の身体拘束防止マニュアルを作成し研修を行うとともに、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 対応が困難な利用者の場合はカンファレンスを行い、転倒防止のために夜間の見守りを強化したり、ベッドにセンサーを付けるほか、布団に大きな鈴を付けるなどで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内部研修を行い、虐待に関する理解を深め、利用者にも精神的にも拘束する事のないサービスを提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修に参加し、必要な場合には、関係者に相談できる体制をとっている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、家族の意向、又は、疑問点に関しては丁寧に相談を受けるようにし、安心して利用していたできるように取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、代表や行政の職員にも参加していただき、家族からの素直な意見が聞けるようにしている。また、運営上、改善するべきものがあれば、取り組んでいる。	職員は日常の問いかけや会話の中で利用者の意見や要望を汲み取り、運営に反映させるよう努めている。 管理者や職員は運営推進会議や事業所の行事を通して家族等の話を聴くよう努めているが、意見や要望を汲みあげるまでには至っていない。	家族交流会などの機会を利用して無記名のアンケートを実施するなど、利用者や家族等の意見等を汲みあげるために工夫することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、スタッフとの面談を行い、日頃から感じていることなどを聞き取り、運営上に取り込めるように努力している。	管理者は職員と定期的に面談を行い、日頃から感じていることなどを聞いているほか、年2回行う人事考課で職員が意見などを出せる機会を設け、できるだけ職員の意見等を聞くよう努めるとともに、出た意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し、スタッフのレベルのに合わせた目標管理を行い、実績に伴って、給与の交渉を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に、外部からの講師を招いて、様々な指導を得ている。又、スタッフそれぞれが、興味のある研修には積極的に参加するように促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在の所、事情により実現できなかったが、他の事業所への見学も予定している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期のアセスメントを十分に行い、利用者が安心して生活できるように、スタッフ全員でコミュニケーションの取り方に注意しながら、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安に思う事は何でも相談していただけるように、積極的に声掛けをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当に、入所が必要なのか、できる限り、在宅で生活を続けていく方法はないのか、安易に入居を受けるだけではなく、担当しているケアマネとも相談し、ご本人に合ったサービスが提供できるように取り組んでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を柱とし、できることは自分で行っていただき、自分でできる喜びを感じていただけるように援助している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を、手紙や電話などで定期的に伝え、時間がある時には、面会にいらしていただけるように、連絡を密に行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会にも感謝し、入居しても馴染みのある方との関係が続けて行けるように、開けた運営を心掛けている。	職員はアセスメントや生活歴調査を利用して利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所を把握しており、老人会の人に来てもらったり踊りのお弟子さんと呼んだりして関係が途切れないよう努めている。 公園での花見や牛久大仏へのドライブなど、職員は利用者が馴染みの場所に出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、レクリエーションやイベント等を通じ、交流が持てる場を提供している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した家族に関しても、家族が望むのであれば、ホームの広報誌を毎月送付し、いつでも相談ができるように声掛けを行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントの際には、本人の希望を聞き取っている。	利用者がその人らしい暮らしを続けられるよう話しかけや声かけを通して希望や意向を聴いたり、家族等から情報を得ている。 意思表示が困難な利用者の場合は、日々の生活の中での表情やしぐさから利用者の思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、障害面にばかり目を向けず、その人が生活してきた習慣を大切にし、聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントをしっかりと行い、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを行い、アセスメントし、カンファレンスにて検討している。見直しがされたケアプランに関しては、ご家族に送付し、意見等を記入していただき、それに沿って、プランの再見直しも行っている。	利用者の担当職員が中心となりアセスメントを行ったり、家族等の意見を取り入れて介護計画の原案を作成し、原案を基に会議で職員と意見交換を行い介護支援専門員と一緒に介護計画を作成している。 3ヶ月毎にモニタリングを実施している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時現状に即した介護計画に見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子が詳しく把握できるように、日頃から、記録を細かく書くようにしている。又、そこで得た情報をケアプランに反映するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	例として、いきなり入居してしまうことに不安を持たれる利用者に対しては、入居してしばらくの間、ホームと在宅の両方での生活を提案（ショートステイ的なサービス）し、徐々に、ホームでの生活に慣れていただけるようなサービスも行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや慰問の団体様の受入れを積極的に行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際には、希望されるかかりつけ医の有無を確認しているが、特に希望がない場合には、当ホームに往診で来てくださっているDrがおり、それにより家族の受診の負担を軽減できることを説明し、希望される方には、かかりつけ医の変更にも応じている。	入居の際に利用者や家族等が希望するかかりつけ医を確認し、希望があれば受診を支援しているほか、協力医療機関の医師による訪問診療が受けられるなど、利用者や家族等の意向にそって適切な医療が受けられるように支援している。 職員は受診結果をその都度家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは、週に1日以上、看護師が訪問し、相談に応じていただいている。夜間においても、同様。Drへの報告、相談を看護師が行っている為、医療機関との連携がスムーズに保たれている。		



☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より、医療機関の相談員との連絡を密にし、入院先での状態把握に努め、相談を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、家族に対して、当ホームの終末期に向けた指針を明記し、その後も、その場面、その場面で確認をしている。	契約時に利用者や家族等に事業所の看取りに関する指針を説明するとともに書面で同意を得ている。 利用者の状態の変化に応じて段階毎に利用者や家族等の意向を確認し、職員で共有している。 事業所では看取りの経験があり、職員は看護職員から看取りに関する指導や研修を受け、対応ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師や、必要に応じて、救急隊員からの応急処置等の指導を得ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、避難方法の確認を行っている。それに伴い、地域の消防団の方に、運営推進会議に参加していただき、実際に災害が生じた時に協力していただけるように相談している。	年1回の避難訓練を実施しているが、夜間を想定した避難訓練や近隣住民の参加を得た避難訓練を実施するまでには至っていない。 消防署から自主訓練の回数を増やすよう指摘されている。 避難訓練の実施記録を作成し、課題について話し合い職員で共有している。 災害時に備え、食料などを備蓄するまでには至っていない。	避難訓練は自主訓練を含めて年2回以上実施するほか、夜間を想定した避難訓練を実施することを期待する。 運営推進会議や町内会長を通して事業所の避難訓練に近隣住民の参加を呼びかけることを期待する。 災害時に備えて十分な量の食糧、飲料水等を備蓄することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	コミュニケーション技法に関する内部研修を行い、利用者に失礼のない声掛けの仕方はもちろん、プライバシー保護に関しても、配慮している。	職員は事業所独自のコミュニケーション技法に関する研修を受講し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。 個人情報に関する書類は鍵のかかる事務所に保管し、プライバシーの確保に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的なサービスをするのではなく、常に、利用者本人に選んでいただくように働きかけている。				
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的なサービスをするのではなく、常に、利用者本人に選んでいただくように働きかけている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る衣類は、利用者本人が決定することができるように声掛けをしている。				

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に合わせて、できる範囲で協力を依頼している。メニューも利用者の嗜好に合わせてるように、委員会を設置し、毎月、検討している。	利用者は献立の食材を購入するため職員と一緒に買出しに行ったり、盛り付けをしたり、テーブル拭きや食器の後片付けをしている。 食生活向上委員会を設置し、毎月の献立を利用者の嗜好に合わせてるように検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分摂取量を記録に残し、本人の状態に合わせてながら、時間や提供量に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は、口腔ケアの声掛けを行い、自身で行える方には、行っていただいている。又、義歯を使用している方には、夕食後、義歯を預かり、洗浄し、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	アセスメントの際に、個々の排泄パターンの把握に努め、その人に合ったケアに努めている。必要以上のオムツの使用は進めず、誘導や声掛けのタイミング等に関しても、カンファレンスで検討している。	職員は利用者一人ひとりの習慣や排泄パターンを把握し、時間を見計らって声かけや誘導するなど、トイレで排泄ができるように支援している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃より、水分摂取量に注意し、利用者の希望に合わせて牛乳を提供してみたり、看護師の指導のもと、腹部マッサージを行い、下剤に頼ることなく、できる限り、自然排便が出来るように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	チェック表を使用して、入浴状況の確認を行って、最低限の入浴はいただいているが、利用者の希望に合わせて、入浴していただけるように対応している。	入浴は基本的に週2回としているが、利用者の希望にそっていつでも対応ができるようにしている。 入浴を拒む利用者には、入浴時間や声かけをする職員を替えるなどの工夫をしたり、歌を歌ったり、入浴剤を入れたりして入浴が楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アセスメントの際に、個々の生活習慣の把握に努め、安易に安定剤や睡眠導入剤の処方を依頼したりせず、個々に合った声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的に、薬の管理は看護師が行っているが、服薬の際の留意点や指導を受け、服薬後の状態観察も欠かさずに行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントの際に、個々の生活習慣の把握に努め、継続していただけることは、積極的に取り組んでいただいで、楽しみのある生活が送れるように援助している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	天候や健康状態にも左右されるが、 定期的に外出の機会を設けている。	利用者は天気の良い日には事業所周辺 を散歩したり、近所の八百屋に職員と一 緒に買い物に行っている。 家族等の協力を得て毎年恒例の八坂神 社への初詣や節分の豆まき、地域の祭り などに出かけられるように支援してい る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援して いる	現在のところ、所持金を持たれてい る方はいらっしゃらないが、金銭管 理に関する援助も行っており、希望 があれば、一緒に買い物に出かけ、 好きなものを購入できるような対応 もしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りがで きるように支援をしている	本人からの希望があれば、連絡先と の相談をして、定期的に連絡が取れ るように援助している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採り 入れて、居心地よく過ごせるよう な工夫をしている	清潔感に留意し、居心地が良い空間 作りに努めている。	広々とした明るい居間にはゆったりと 寛げる椅子を置き、居心地よく過ごせる よう工夫している。 廊下は広く歩行訓練に活用しているほ か、洗面台を取り付けたりベンチを設 置してゆとりのある空間になっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが自由な所で過ごせるように声掛けし、日当たりの良い廊下にはベンチを設け、リビングには大きなソファを置いて、自由に利用していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、危険な物以外に関しては、特に制限を持たず、その人が使い慣れた物をホームで使用していただけることを説明している。	利用者は居室に使い慣れた家具やぬいぐるみなどを持ち込んでいるほか、家族等の写真を飾ったり仏壇を置くなどで、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的にバリアフリーが完備されており、安全に利用していただけるような設備となっている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない



(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム美里

作成日 平成24年9月20日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の実施不足と災害時の近隣住民の協力を得られる体制となっていない。水・食料の備蓄が整っていない	夜間想定を含んだ年2回以上の避難訓練実施と災害時の近隣住民の方の協力と理解。	近隣住民の参加を呼びかけた避難訓練の計画と実施。 水・食料などの備蓄	6ヶ月間
2	4	市職員・地域住民が参加した運営推進会議が行われていない。2ヶ月に1回開催されていない。	2ヶ月に1回、市職員・地域住民の参加した運営推進会議が開催される。	2ヶ月に1回の（計画）と開催。市職員へ日程の連絡、参加を求める。自治会の回覧板等に事業所の紹介などを載せてもらい気軽に参加してもらえるような活動をしていく。	6ヶ月間
3	10	ご利用者様や家族からの意見、要望を汲み上げられる工夫がされていない。	ご利用者様・ご家族からの意見・要望を汲み上げ、事業所の運営に反映させていく。	定期的は無記名アンケートの実施や事業所内にご意見箱を設置する。	6ヶ月間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。